

みやぎ子育て・女性健康支援センター便り

〒982-0817 仙台市太白区羽黒台2 1 - 2 5 一般社団法人宮城県助産師会内

☎022-229-2388 fax022-395-4228 ✉siensenter@gmail.com 平成 29年2月吉日発行

助産師 飛翔の年です！！

1. ご挨拶

一般社団法人宮城県助産師副会長

みやぎ子育て・女性健康支援センター代表

石川初枝

新春を迎え、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

今年は、羽ばたく、卵を次代に繋ぐ酉年です。助産師、飛翔の年です。共に助産師の専門性をますます活かして参りたいと思います。

そのために、勤務部、開業部、保健指導部、センターが、それぞれの特徴・資質を知り、互いに得意な専門助産師と連携をとる姿勢が益々必要と思います。その意味で、昨年発行された開業マップに、支援センター案内を載せることにした、理事、役員の方々のご采配に感謝致します。

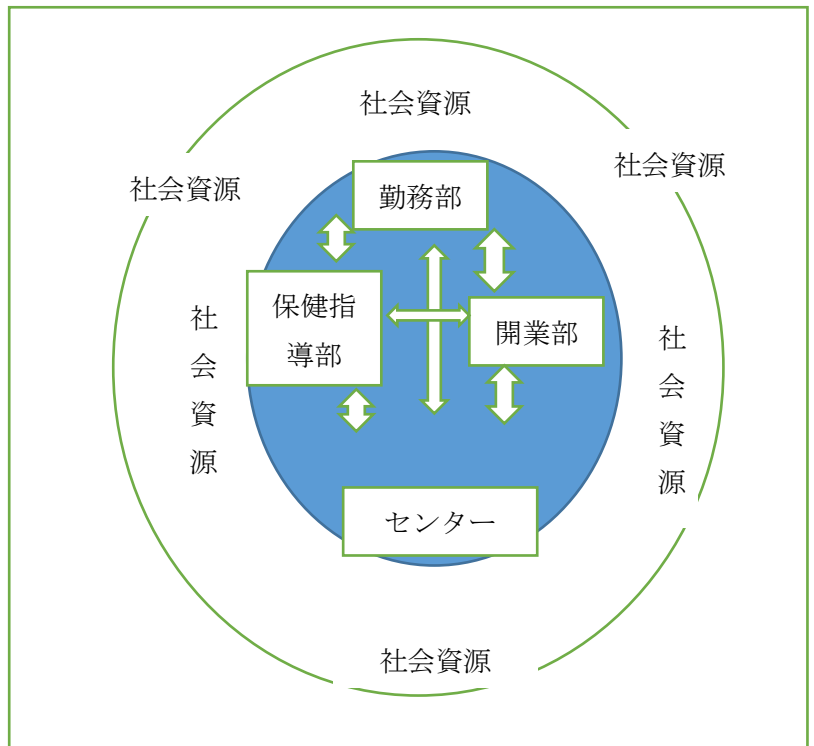
支援センターでは、授乳のケアが必要な方、子どもさんのケアが必要と思われる方は、開業助産師をご紹介します。虐待が心配される方は、保健センター、児童相談所。精神を病んでいらっしゃる方は、受診を確認し、保健センターに連絡することもあります。望まない妊娠では、母体保護法の説明と共に、いずれ

も受診とつなげ、時には、特別養子縁組制度を説明することもあります。法テラスや男女雇用均等課の説明も多々あります。

いずれにしても、何か問題を抱え、解決策を模索し支援センターにアクセスして下さる訳でして、温かい言葉で真摯に受け止め（受容・共感）、情報提供し、安心して安全な幸せな妊娠、ご出産、産後、思春期、更年期を送って頂きたいと願っております。

28年度の相談件数は、右表のようになっており、例年通りの件数です。相談員の資質からは、まだまだお受け出来る余裕がございます。会員の皆様には、益々の広報活動をお願い致します。

最後になりますが、皆様の羽ばたきとご健勝を願い、新年のご挨拶と致します。



	電話相談	メール相談	合計
4月	21	9	30
5月	26	19	45
6月	22	2	24
7月	8	2	10
8月	29	3	32
9月	19	8	37
10月	15	0	15
11月	19	18	37

2. 安全管理合同研修会

子育て・女性健康支援センター推進委員会に参加して

みやぎ・子育て女性健康支援センター会計 加藤由美

平成28年10月29日(土) 公益社団法人東京都助産師会館にて開催された、安全管理合同研修会に参加しました。以下要点をまとめ、若干の主観を含めて報告致します。

○ドメスティック バイレンス 医療における対応

聖路加国際大学 片岡弥恵子先生

ドメスティック バイレンス (DV) とは、パワーとコントロールである。パートナーからの執拗なコントロール、相手を支配し相手を思い通りにコントロールするためにとる手段である。身体的暴力、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力の特徴について、それぞれを確認した。

悲しいことに、被害を受けた4割ほどにも相談していないという。自分にも悪いことがあるとして、相談しないことが多いと。

支援において大切なことは、女性の味方になること、安全を最優先すること。また、DVスクリーニングの活用は、被害者が医療者にDVについて打ち明ける準備になることなど教えてもらった。

片岡弥恵子先生のご紹介

- 女性に対する暴力スクリーニング尺度への回答と想起した状況の分析/今関 美喜子, 片岡 弥恵子, 櫻井 綾香/日本助産学会誌 29(1) 22-34 2015年06月より
- 目的: 女性に対する暴力スクリーニング尺度 (VAWS) は、日本で作成されたDVのスクリーニングツールである。より正確で臨床適用性の高いツールを開発するため、本研究は、妊娠中にDVスクリーニングで用いたVAWSの項目について産褥期にインタビューを行い、質問項目への回答と想起された状況を明らかにすることを目的としている。

○相談援助職の記録の書き方

精神保健福祉士 八木亜紀子先生

記録は、誰のために作成するのか、自分自身か、産婦家族か、同僚かの質問があった。開示請求があった場合は、弁護士や裁判官が読むかもしれない。記録には10年間の説明責任がある。故に第三者が読めるように書く。SOAP、4つのパートに分けて書くことが大切であることなど、日々の記録について振り返るよい機会になった。

○子育て・女性健康支援センター実務者交流会

最後は、グループに分かれて、各県子育て・女性健康支援センターの現状や課題について話し合いました。人数が多いところ、少ないところ、マニュアルやスーパーバイザー、行政との連携など、各県の取り組みを伺うことが出来た。

トホホなコーヒーの思い出

東京に行くことなどほとんどなく、やっと会場に着いてホッとして、飲もうとしていたボトルコーヒーを自分のブラウスや床にこぼしてしまった。あっと思っていた所、周囲にいらした方が、皆で手伝ってくれた。「床はやっておくから、あなたはブラウスを洗ってらっしゃい」と。

おかげさまで、床にシミも残さず、ブラウスも無事で帰路に着きました。研修の学びと共に皆さまの優しさを頂いた1日でした。

